

がんばる

Chubu

観光地域づくり編

昇龍道のモデルコース周辺で展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回のエリアは静岡県の浜松市。「出世の街 浜松」による地域ブランドを確立し、「やらまいか精神」を発揮して取り組むシティプロモーションを紹介する。

日本そして世界に誇る「出世の街 浜松」をつくりだす

龍潭寺本堂



「出世の街 浜松」によるシティプロモーションが始動

出世運が根付く街“浜松”

強大な大名たちが群雄割拠する戦国時代において、織田信長と同盟を結び、耐え難きを耐え、次第に武力と知略を貯え、後に天下取りの夢を果たした徳川家康。家康は1570年に浜松城を築城し、青壮年期の29歳から45歳までの17年間を浜松で過ごした。その間には、生涯最大の敗戦とも言われる三方ヶ原の戦いなど、苦難を経て多くのことを学び、浜松の地で天下統一の礎を築いていった。また、家康以降の浜松城主の多くが江戸幕府の要職に登用されたことから、浜松城は「出世城」と呼ばれるようになった。

近代の浜松では、「やらまいか（“つべこべ考える前にやろうじゃないか”の意）精神」にあふれた多くの起業家を輩出し、ヤマハ、カワイ、スズキ、ホンダ、浜松ホトニクスなど世界的企業が誕生した。

そのような出世運が根付く浜松において、鈴木康友市長をトップとする「シティプロモーション推進本部」が2007年に発足し、全庁をあげて総合的かつ戦略的なシティプロモーションを開始。その一つとして浜松を

「出世の街」として売り出す計画が立ち上がった。

今回は「出世の街 浜松」による地域ブランドの確立と、それらを活用した観光地域づくりについて、浜松市観光・シティプロモーション課の原田憲治さんにお話を伺った。

キャラクターの活用で知名度がうなぎのぼり

浜松市は、2005年に12市町村が合併し、都市部から中山間地域、産業も農林漁業から都市型までを有する国土縮図型の都市となった。合併により市域の半分は過疎地域で限界集落も120を超えたが、市街地があり、海・山・川・湖といった自然もあり、平野部が多く産業も盛んで、地域資源としてブランド化できるものが拡大した。

地域マネジメントの機運が高まった2007年に政令指定都市に移行、同時に鈴木市長が就任した。「浜松は多くの偉人を輩出した街であり、観光資源も多いわりには知名度が低い」と感じた市長は、これらをもっと国内外にアピールして都市間・地域間競争に勝ち抜こうとシティプロモーションの推進を開始した。

「出世の街 浜松」を売り込む取り組みとして、2011年の市制100周年を記念して誕生したマスコットキャラクターが「出世大名家康くん」だ。家康くんは、誕生した年から「ゆるキャラグランプリ」に参加し、2013年には全国2位となった。「それまでは市が旗を振っていたが、優勝するには市民が主体となって盛り上げていかなければ」と限界を感じた市は、無類の家康好きで街の活性化事業にも取り組む飲食店経営者の秋元健一さんを市民応援団の団長に任命。最盛期には約2万人が参加する応援団となった。

家康くんに天下を取らせようと民(市民応援団)・官(浜松市)・産(地域企業)が協働し、地元開催の2015年、家康くんは優勝の快挙を成し遂げた。紅白歌合戦に出演するなど、全国ネットのテレビで取り上げられる機会も増え、「出世の街 浜松」の知名度は瞬く間に上昇した。



浜松城公園で開催のイベントに登場したロボキャラ「家康くん」に興味を示す子どもたち

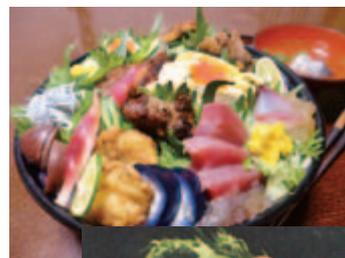
地元をさらに盛り上げようと昨年、浜松商工会議所のロボット研究会の参画企業が連携し、ロボキャラ「家康くん」を開発。今年中にはAIを搭載し、受付やPRを行える機能を付加する予定だ。

出世旅を楽しむコンテンツづくり

浜松市が唱える出世とは、仕事で出世するということだけでなく、自分の掲げた目標の達成など幅広い意味で定義されている。縁結びで出雲大社へ多くの人が行くように、「出世したい人は浜松へ行こう」という聖地化

を目指している。

そこで、「出世の街 浜松」を盛り上げる取り組みとして、2014年から「浜松出世旅プロジェクト」がスタートした。JR浜松駅から浜松城までの道のりを「出世街道」と命名し、出世旅を楽しむコンテンツとして出世運があがる(かもしれない)



1万円の出世井(上)と直虎ゆかりの料理「遠州雑塩鍋」(下)

縁起のいいグルメ「出世飯」の提供を開始。「出世飯」は地元料理店主らが中心となって仕掛けている事業で、浜名湖産のどうまん蟹やすっぽんなど豪華食材を用いた1万円の出世井や、今年は大河ドラマで話題沸騰の井伊直虎にちなんだ雑料理も登場している。

さらに、家康が亡くなってから四百年の節目となる2015年には、ゆかりの地である「出生の岡崎」「出世の浜松」「大御所の静岡」の3市3商工会議所と静岡県が連携し、顕彰事業を実施した。ゆかりの地をストーリー立



浜松城天守閣に展示されている、若き日の家康公の3D肖像

てし、滞在型の周遊コースを造成。浜松市は、狸オヤジ、狡猾という世間からのこれまでの家康のイメージを「敗戦を糧として天下統一の礎とした勇猛果敢な武将」という浜松時代の血気盛んなイメージに転換させるべく、若き日の家康公の3D肖像や三方ヶ原の戦いの再現ジオラマなどを制作し、観光資源化していった。

戦国時代を駆け抜けたヒロイン「井伊直虎」を活用した観光地域づくり

大河ドラマが浜松にやってきた

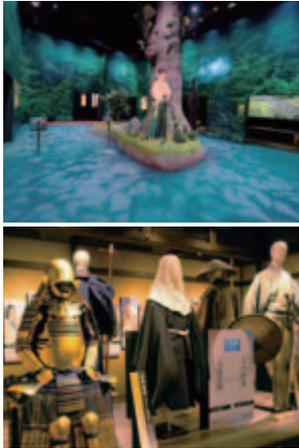
今年の大河ドラマ「おんな城主 直虎」の舞台となった浜松。全国で大河ドラマの誘致合戦が繰り広げられる中、井伊直虎に白羽の矢が立ったのは、まさに青天の霹靂とも言うべき出来事だった。直虎は、徳川四天王の一人、井伊直政の養母であり、井伊家22代当主直盛の一人娘。出家した身でありながら井伊家の男が次々と戦死・殺害される中、後見人として幼い直政を養育しつつ、

女城主として手腕を発揮し、井伊家を断絶の危機から救ったと言われている。

この観光客を呼び込むビッグチャンスをもノにするため、官民協働の「おんな城主 直虎」推進協議会が設立され、98機関が参画。事務局は浜松市観光・シティプロモーション課が担い、歴史・文化の発信と宣伝によって誘客を図るとともに、地域の機運を醸成し、観光振興による経済活性化を推進している。

「大河ドラマが直虎に決まった当初、直虎の知名度はほとんどなく、家康公とのつながりを説明するのも一苦労だった。また、前年の真田丸が大ヒットしたこともあり、不安は計り知れないものだった。しかしそこは、持ち前の『やрмаいか精神』を発揮し、地域が一体となって頑張った」と原田さんは当時を振り返る。

オール浜松で観光客をおもてなし



大河ドラマ館の館内。来場者数が順調に推移すれば、歴代2位の「篤姫」を抜く勢いだ

協議会は、「大河ドラマ館」「地域遺産センター」「出世の館」を誘客の目玉として整備するとともに、新マスコットキャラクター「出世法師直虎ちゃん」や統一ロゴマークを活用した誘客宣伝を実施。この機を逃さず稼ぎ、そして観光をしっかりと産業化していこうと、市内ベンチャーと組んだ新しい体験型コンテンツの開発・導入や新商品の開発・販売などにも尽力している。さらに、市民ボランティアや観光ガイドとして地域住民も協力し、オール浜松で地域の魅力を発信している。

「おんな城主 直虎」は、通常の大河ドラマファンに加え、女性や子どもの視聴者が多い。その効果もあり大河ドラマ館の来場者数は当初予定の1.7倍の推移で、9月3日には年間目標の50万人を突破した。日銀静岡支店は「おんな城主 直虎」が静岡県にもたらす経済波及効果を179億円と試算している。

「井伊家ゆかりの地を目的に浜松を訪れる観光客は日帰り客が多いが、来訪をきっかけに浜松の魅力に気づきファンとなった人たちが、次は周遊や滞在で訪れるような仕掛けづくりを『やрмаいか精神』で進めたい」と浜松市は目論んでいる。



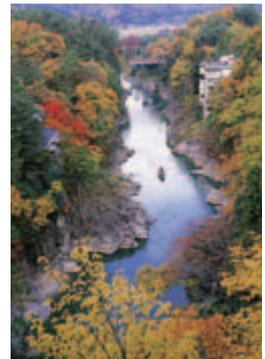
井伊家菩提寺の龍潭寺。近隣の方広寺などとともに紅葉の名所としても知られる

DMOの設立と広域連携でさらに加速する観光地域づくり

観光地域づくりをさらに加速させるために2018年4月、浜松市と湖西市、観光事業者が協働し、「浜松・

浜名湖DMO(仮称)」を設立する予定だ。日本一、世界一になれる武器を観光資源としてつくりあげ、他とは違う新しいサービスによって、浜松・浜名湖地域でしかできない体験やプレミアムな観光の提案を考えている。「今、全国各地でDMOができていくが、どこも苦労していると聞く。そこに『やрмаいか精神』でチャレンジし、最初に成功させ全国のロールモデルになれば」と原田さんは意気込む。

そして、現状の日帰り中心の観光スタイルから、周遊や滞在につなげるためには近隣の県や市町村との連携も不可欠だ。現在、三遠南信地域の行政、経済団体などで構成される三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)では、「文化財」「秘境」「天竜川」といった資源を上手くストーリー立てし、日本遺産※1の認定を目指している。文化的なつながりが強い当地域では日本遺産認定を機に地域一体となった観光振興を推進していこうと計画だ。また、国内最大の観光キャンペーンとして知られるデスティネーションキャンペーン※2が2018年の秋に愛知県、2019年の春に静岡県で開催される。浜松市や観光事業者は愛知県と連携し、ものづくりの街として遠江から三河につながるストーリーで周遊ルートの造成も可能ではないかと思案している。行政区域にとらわれずお互いの地域資源を発掘し、住民の視点も取り入れながら磨き上げていくことで、地域経済が活性化することを期待する。



飯田市の天竜峡。県境を越える連携で新たな観光地域づくりが始まるうとしている

地域特有の「やрмаいか精神」を発揮して推進するシティプロモーションは、常に新しい試みにチャレンジしてきた。直虎特需を追い風に、活力溢れる地方都市「出世の街 浜松」が巻き起こす、これからの観光地域づくりから目が離せない。

※1：有形・無形の文化財だけでなく、地域の歴史や風土をストーリーとして認定し、観光振興に生かす文化庁による事業。

※2：JRグループ6社と指定された自治体、地元の観光事業者などが共同で実施する国内最大の観光キャンペーン。

文：企画部 櫻井 景子
取材協力：写真提供：
浜松市観光・シティプロモーション課



浜松城周辺のパワースポットを巡ってみよう!! 歴史の足跡をたどって運氣上昇!!

「出世城」とも呼ばれる浜松城周辺には徳川家康や井伊家ゆかりの史跡が多く残されています。
爽やかな秋風を感じながらレンタサイクルで巡ってみてはいかがでしょうか。

MAP 1 Rental Cycle はままつペダル



様々なタイプの自転車が300円からレンタル可能。シャワー室やコインロッカーも完備されています。

料 シティサイクル/300円(4時間)
電動アシスト自転車/500円(4時間)

MAP 2 浜松出世の館 (2018年1月31日まで)



大河ドラマ「おんな城主 直虎」や家康関連の展示、市内の観光案内、お土産販売等の機能を備えた「出世の街 浜松」の観光拠点となる施設です。

料 無料

MAP 3 魚料理専門 魚魚一

とといち
出世飯で
ランチタイム



家康のかぶとをイメージした丼。さらに徳川四天王を、しらす、うなぎ、すっぽん、どうまん蟹と浜松食材で表現しています。

料 10,000円
5日前位までに要予約
☎053-458-6343

MAP 4 ホテルコンコルド浜松 18階 王府井

浜松の食材をふんだんに取り入れた、女城主「井伊直虎」記念ランチです。

直虎中華ランチ

料 2,000円
前日18:30までに要予約
☎053-457-1114



MAP 5 引間城跡(浜松元城町東照宮)



東照宮は1886年、浜松城の前身となった引間城の跡地に創建。10代の時に秀吉も引間城を訪れたという記録が残っており、二人の武将を天下人へと導いた最強の出世パワースポットとして多くの参拝者が訪れています。(写真は、浜松出身の世界的ジャズピアニスト上原ひろみさん)

MAP 6 浜松城



家康が1570年に築城し、天下統一への礎を築いた城。天守閣の展望台からは浜松市街を一望でき、晴れた日には富士山が見えることもあります。景色を楽しみながら家康の出世パワーにあやかう。

料 200円 ※中学生以下無料

MAP 7 浜松秋葉神社

家康が浜松城に入城した際に、浜松市の北部にある秋葉神社の総本山から勧請した神社。直政とともに「井伊の赤備え」を結成した旧武田家の家臣は、ここに血判状を奉納しました。

